

ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社
(以下「ディズニー」という)
第九回ディズニー・チャンネル放送番組審議会
議事録

開催日時 : 2007年11月9日(金) 17:30~19:30
開催場所 : 東京都港区麻布台 2-4-5
ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社
ウォルト・ディズニー・テレビジョン・インターナ
ショナル ジャパン
スタジオ・ディズニー会議室

在任審議委員数 : 7
出席審議委員数 : 4
出席審議委員氏名 : 加藤 諦三
木下 美子
前田 耕作
柳生 純麿

その他、ディズニ : エディー・カックス
ーからの出席者 (バイス・プレジデント/編成部)
アイリーン・ハンベルガー
(プログラミング・シニアマネージャー/編成部)
待鳥 雅之
(コンプライアンス・スーパーバイザー/編成部)

- 議案**
- 1) ディズニー・チャンネル及びトゥーン・ディズニーの番組編成・改編について
 - 2) ディズニー・チャンネル及びトゥーン・ディズニー放送番組について
(下記の番組については、本会議に先立ち、各審議委員にVHSテープを送付した。)
 - ・プレイハウス・ディズニーの新しいホスト：ミホとマセイの紹介
 - ・プレイハウス・ディズニーのおさるのホスト：ウーとアーの紹介
 - ・「ザ・ウィグルス」
 - ・「イン・ヤン・ヨー！」
 - ・「甲虫王者ムシキング～森の民の伝説～」

審議の概要

- 1) ディズニー・チャンネル及びトゥーン・ディズニー番組編成について
ディズニー・チャンネル及びトゥーン・ディズニーの番組編成・改編について

説明がされ、下記のとおり意見交換が行われた。

(以下●印 審議委員からの意見及び質問、○印 ディズニーからの出席者の回答)

- 10月から、ディズニー・チャンネルでは、グラフィックス等を含め、大幅に改編された。
- まず、プレイハウス・ディズニーの枠が拡大された。
11月からは、『ザ・ウィグルス』も放送が開始。合わせて、『こちらエミリー・ヤン』『こちらダニエル・クック』も放送が開始される。
- 両チャンネルにおいて、ターゲット視聴者の差別化はできているのか？
- ディズニー・チャンネルは、やや女児寄りの傾向があるが、トゥーン・ディズニー/JETIXは男児向けチャンネル。また、今回の改編で、両チャンネルの番組の重複も解消されている。
- 意外なことに、『リセス』が人気あり。

2) ディズニー・チャンネル及びトゥーン・ディズニー放送番組について

ディズニー・チャンネル放送番組について各委員より意見交換が行われた。

(以下●印 審議委員からの意見及び質問、○印 ディズニーからの出席者の回答)

プレイハウス・ディズニーの新ホストについて：

- プレイハウス・ディズニーのイメージが一新されたことに伴い、新ホストが登場。二人が出演するショート・コーナーとしては、視聴者からアイデアを募った工作をする番組「アート・クリック」、ディズニーのキャラクターの動きを真似てダンスをする「ダンス・スケッチ」、生活で使う身の回りのものについて、クイズやゲーム形式で学ぶ、「パズル・プラス」等がある。
- 今回は、子供たちからアイデアを募集したり、新しいホストの二人と一緒に楽しむ・学ぶというコンセプトで作られており、視聴者参加型・双方向性といった特徴が強化されている。
- おサルホスト：ウーとアーについては、弟のアー(赤)は、非常に好奇心旺盛で狂言回しの役割を担う。兄のウー(青)は、弟のシナリオに合わせて動く。
- 子供＝好奇心旺盛、とダブって見えるのが良いのかもしれないが？

『ザ・ウィグルス』について：

- 一緒に歌って踊ろう、がコンセプトの世界的な人気を誇るシリーズ。ディズニー・チャンネルでは11月5日に放送が開始された。日本国内にも放送開始前からファンが既に存在し、英語教育に熱心なお母さん方にも好評。
- なぜここまで子供たちに受けるのか？
- 調査の結果でも、子供が歌をとて楽しんでいるところが目立った。また、教育的要素についても、親たちの評価が高かった。ただ、子供の受け方と親の受け方のギャップは見ていると興味深い。

『イン・ヤン・ヨー!』について:

- 魔術に長けた姉のイン、肉弾戦が得意な弟のヤン、二人の師匠である老いぼれパンダのヨーの3人の武術の修業物語。コメディ作品。
- 作品世界や背景は、以前ご紹介した『ブランディ&Mr. ウィスカーズ』の雰囲気似たものがある。
- 特に中国を意識して作られたのだろうか？カンフーものなのか？
- 確かに、東洋風＝神秘的というイメージから作られた部分はあると思われる部分はある。
- アメリカでの放送はいつからか？
- 1年前から放送が開始されている。

『甲虫王者ムシキング～森の民の伝説～』について:

- 元々は2003年にセガから発売されたカードゲーム「ムシキングカード」として始まり、幼稚園・小学校低学年の子供たちの間で爆発的な人気を誇った。
- この作品は、テレビ放送用にオリジナルのストーリーを作り、アニメ化したもの。命や生態系そのものが危機に瀕している惑星を舞台にした、森と昆虫と強制する人々の物語で、生と死、家族愛とは何か、自然と人間のあり方、といったテーマを扱っている。
- 子供の自立というものはコンセプト作成時に意識して含まれてはいないのか？
- 最後は、主人公たちが自分で意思決定をするという設定にはなっている。
- 男児が夢中になるのは理解できる気がする。ストーリーは、大人が見ても納得できる内容だと思う。

・『サイエンス・マジック』『こちらエミリー・ヤン』等について：

(その場にて試写・作品を紹介。)

- 『サイエンス・マジック』については、アニメーションを使って詳しく解説してくれるともっと分かり易いのではないだろうか。
- 最近の教育現場では、理科離れが非常に深刻化している。こういった番組が視聴率を取れるようになると良いだろう。
- 4分～5分という短い時間内に、どのようにして、子供たちの興味を引きつけながら分かり易く解説するかが今後の課題でもある。
- 『こちらエミリー・ヤン』については、グループインタビューの結果では、海外の生活感も感じられるということで日本オリジナルの制作の必要はないというのが感想として出ている。
- 「作られたものではない」という自然な雰囲気が良い。子供が興味を持つトピックが取り入れられている。

・その他について：

- 音楽関連の番組の制作予定は？
- 音楽がフックになって番組が流行する、というのは既に実証されている。男の子が主人公の新番組制作の予定がある。
- 幼児の英語教育を希望する親たちは多い。それに特化した番組枠を作るということは、リスクがあるだろうが意味はあるのでは(=単純な「正副の音声切替え」ではなく、英語しか聞こえない時間枠)？
- ディズニーの映画の本編の台詞で構成された番組などは？

以上をもって本会議は、議案の審議を終了したので 19:00 に閉会した。

上記の議事の経過の要領及びその結果を明確にするため、本議事録を作成する。